

長崎県が唯一の産地ではなくなった植物

中 西 弘 樹

Hiroki NAKANISHI : Notes on two plants which have been regarded as endemic species

県内の生物相を研究するには、県内で発行される関連分野のすべての文献はもちろんのこと、県外の文献にも注意を払わなければならない。

ここに記する2種類の植物は、長崎県固有種あるいは外国にあっても日本では長崎県にしか産しないと考えられていたものであるが、近年他県から産地が発見され報告されたものである。これらの新分布は長崎県のフロラを論じる際にも重要であると思われるので、ここに紹介しておきたい。

ヒトツボクロモドキ

ヒトツボクロモドキは長崎に駐在していたイギリス領事のグレートレックスによって多良岳から発見され、原寛博士によって記載されたラン科植物の新種で、多良岳の他には発見されず長崎県の固有種と考えられていた。しかし、中村・中村(1982)によって神奈川県箱根須雲川上流で発見され、その後中川(1988)によっても同じ須雲川上流の別の山から発見された。

ヒトツボクロモドキはヒトツボクロ(*Tipularia japonica* Matsumura)に似ているが、花の距がないことで区別される。ラン科の分類の中で、距があるかないかは重要な形質で、原博士はヒトツボクロとは別属に扱い、ヒトツボクロモドキに *Didiciea japonica* Hara の学名を与えた。しかし、距の有無以外は全く同じ形質であることから、前川(1971)はヒトツボクロモドキは、ヒトツボクロの先祖返り的な形ではないかと考え、ヒトツボクロの変種として、*T. japonica* var. *harae* F. Maekawa とした。その後、ほとんどの文献はヒトツボクロモドキの学名と

してこの変種名を採用している。前記の中村・中村(1982)は同じ場所でヒトツボクロモドキとヒトツボクロを発見していることも前川(1971)の説を支持する事実である。

アツバタツナミソウ

アツバタツナミソウ(*Scutellaria tsusimensis* Hara)は原寛博士によって対馬で発見された新種で、その後朝鮮半島にも自生していることがわかった。対馬では道路の縁などに珍しくはないが、日本では対馬以外では知られていなかった。しかし大井(1978)はそれ以外の産地として、本州西部をあげているし、土井(1983)は広島県から報告している。

北川(1981)によれば、上記の新種記載に先だって1934年に別の植物に対して *S. planipes* Nakai & Kitagawa の学名をつけ、アツバタツナミの和名で新種を記載している。したがって、上記のアツバタツナミソウの和名をオオバタツナミソウに改名するように提案している。しかし、*S. planipes* は中国産の植物で日本に産せず、筆者は改名する必要はないと思う。

参考文献 (一部省略)

- 北川政夫(1981):アツバタツナミソウ *Scutellaria tsusimensis* Hara の和名変更. レポート日本の植物(8):68
中川重年(1988):ヒトツボクロモドキについて. 日本の生物2(7):56
中村 靖・中村和義(1982):箱根大沢川流域の植物調査. 小田原市郷土文化館研究報告18:13-28.
(なかにし・ひろき;〒852 長崎市大手町477-53)